



22q11.2欠失症候群

お子さんのことばをはぐくむために

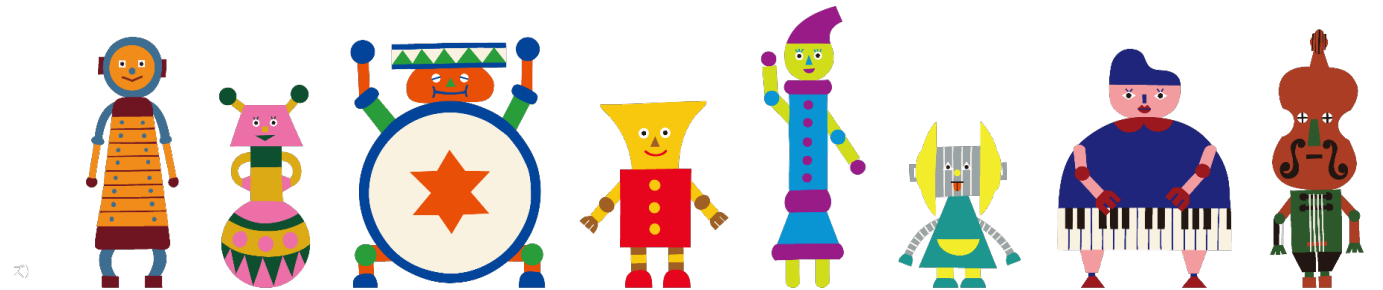
※集団外来開催時の資料を基本にしています。

※改訂を加えていますが情報が古い場合があります。

※情報保護のため、個人利用以外の二次利用は禁止しています。

集団外来開催日：2024年8月16日(第21回22q11.2欠失症候群)
最終レビュー日：2025年12月1日

22q11.2欠失症候群のお子さんの ことばをはぐくむために

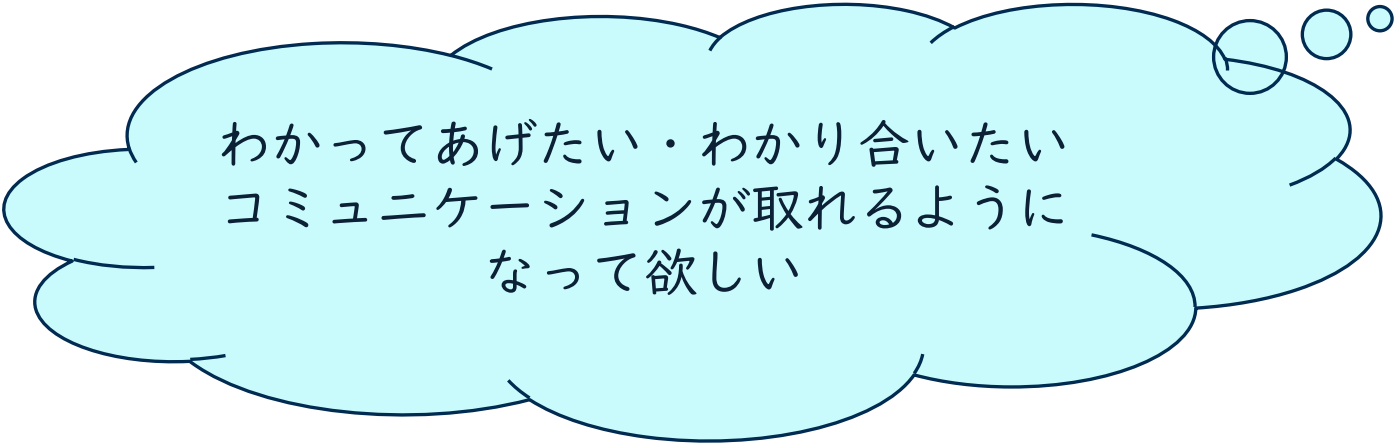


令和6年8月16日

埼玉県立小児医療センター 言語聴覚士 清水加奈子

22q11.2欠失症候群のお子さんの 「ことば」の問題

- ✓ ことばがなかなか出てこない・増えない
- ✓ よく喋るけれどコミュニケーションがとりにくい
- ✓ 発音が聞き取りにくい



わかってあげたい・わかり合いたい
コミュニケーションが取れるように
なって欲しい

ことばが不明瞭な原因は？

- ① ことばの発達の問題
- ② 唇や舌の動きの発達の問題
- ③ 鼻咽腔閉鎖機能の問題

① ことばの発達の問題

1) 社会的相互交渉の発達

→ 「伝えたい」という気持ち（伝達意図）

2) 認知的発達

→ ものごとの理解力（伝達内容）

→ 音の認識（音韻意識）

社会的相互交渉の発達

1) 「伝えたい」という気持ちを育てる

- ✓ 人への興味
- ✓ 視線、指差しの理解
- ✓ 意図の理解
- ✓ 「伝えたい」「わかって欲しい」という気持ち

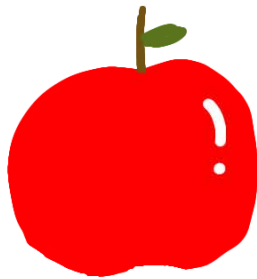
お子さんと一緒に楽しむことが大切

→ わかってくれたという気持ち

→ 一緒に「…ね！」の気持ち を育てる

2) ものごとの理解力（伝達内容）

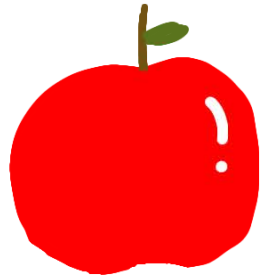
- ✓ ものの区別ができる
- ✓ ものの使い方がわかる
- ✓ **象徴機能** 「あるもの」を別のかたちで表すことができる



『りんご』, [ringo]

- ✓ 語彙の発達
- ✓ 文構造（語連鎖・文・談話）の発達

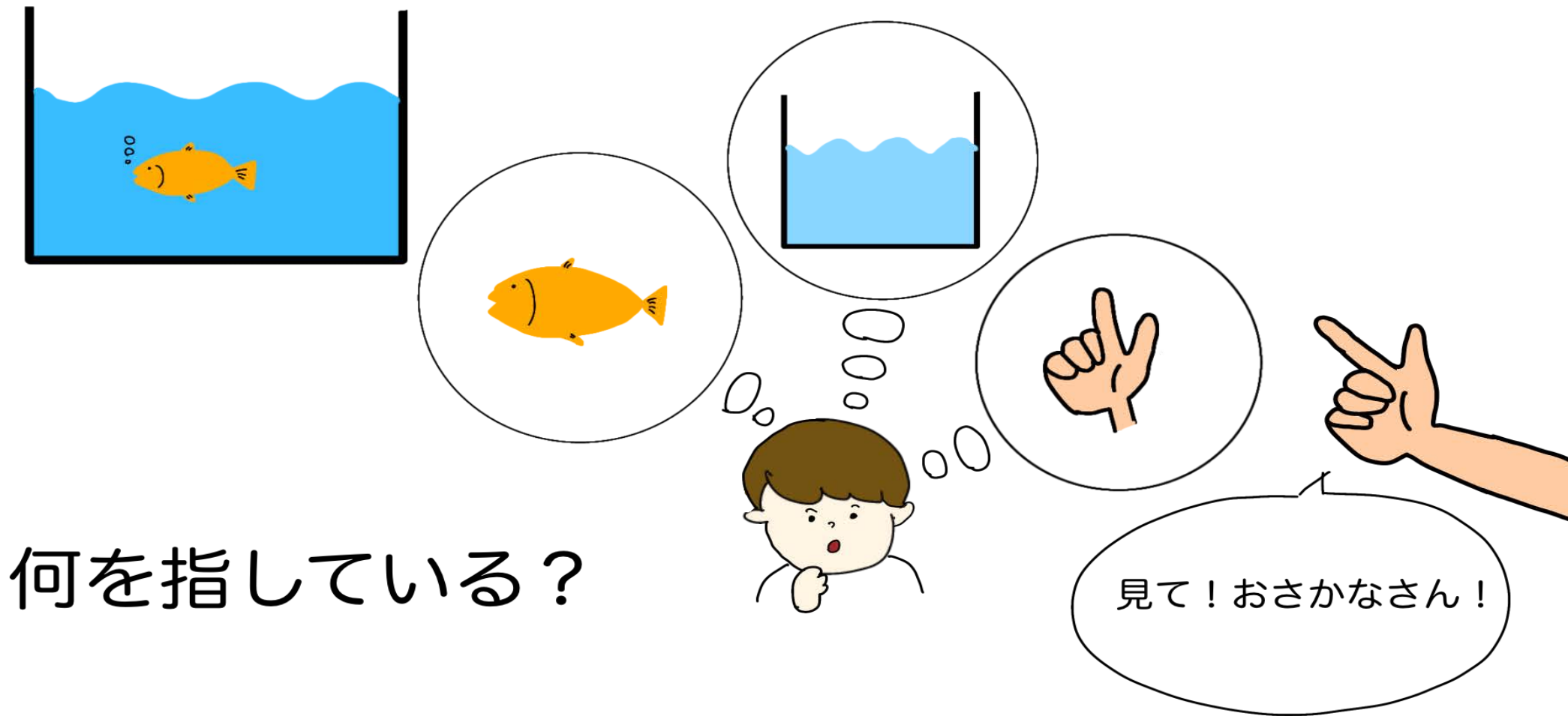
2) 音の認識（音韻意識）



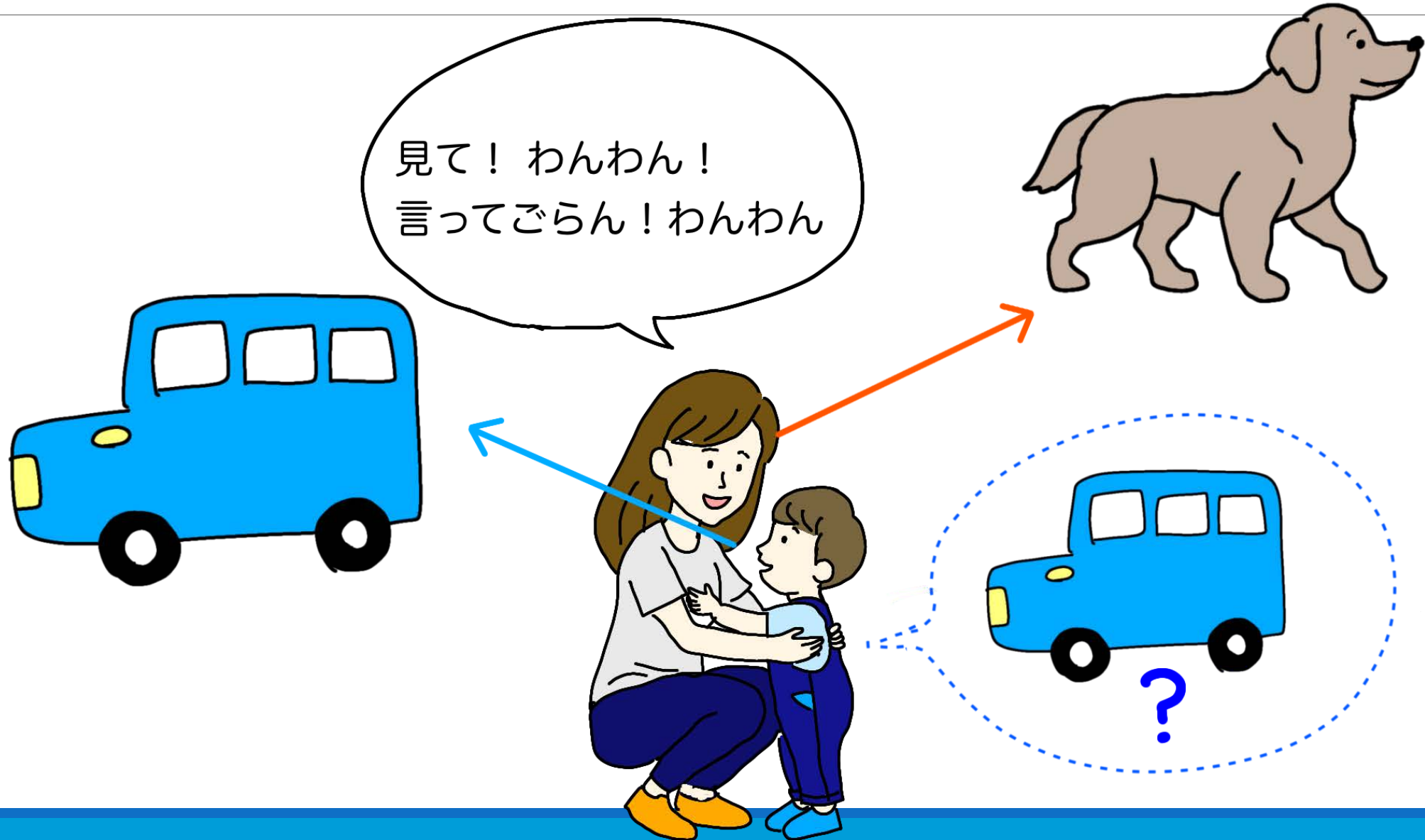
『り・ん・ご』 [riNgo]

例) 「グ・リ・コ」
「チョコレイト」
「パイナツプル」
→ 音の数の認識を育てる

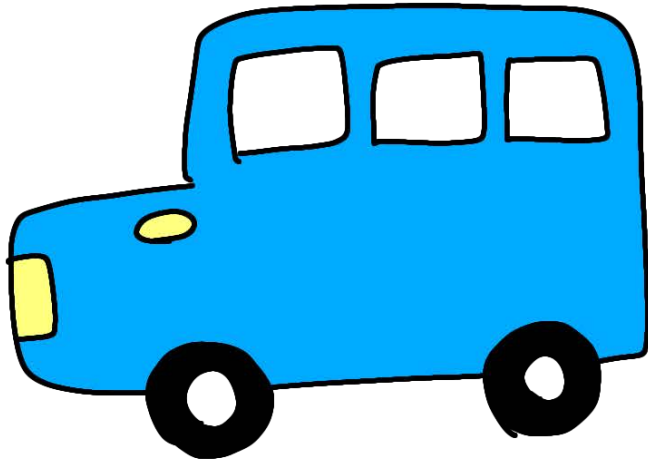
こどもはどうやってことばを覚えるのか？



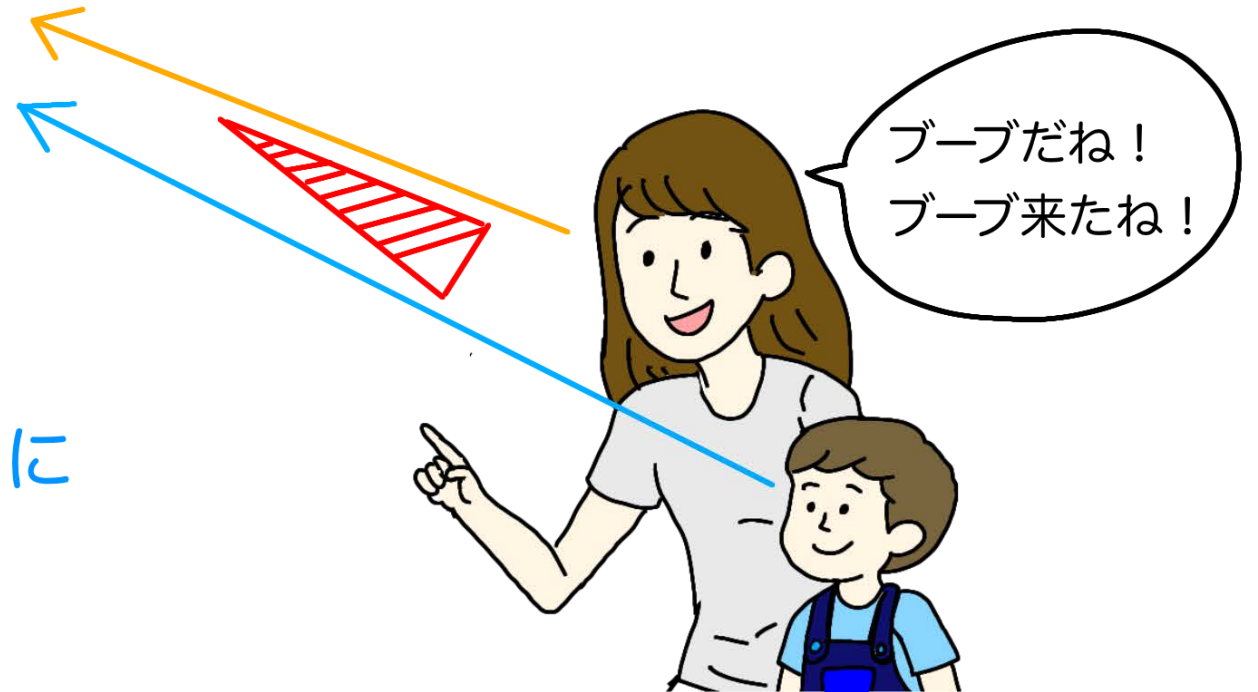
お子さんに見て欲しいことよりも・・・



お子さんが見ていること、
感じていることを大切に



三角形の関係性を大切に



ことばの内容を育むはたらきかけ

- ✓ さまざまな日常体験の中で、お子さんの気持ちに寄り添い、お子さんの段階に即した声かけを
『お子さんのことば+1語』の相槌で広げていく
- ✓ お子さんが話した内容を正しいモデルとして聞かせる
- ✓ お子さんの発話を否定することなく、対話を楽しむ

ことばが不明瞭になる原因は？

- ① ことばの発達の問題
- ② 唇や舌の動きの問題
- ③ 鼻咽腔閉鎖機能の問題

② 唇や舌の動きの問題

1) 発達の途中の場合 …「シャカナ」「チャカナ」

→年齢とともに自然に上手になっていきます

2) 間違えて身につけた異常構音の場合

→発音の訓練をすることで改善します

正常な構音（発音）の発達

構音の完成時期

発達年齢：5歳以降

サ行・ザ行・ツ・ラ行

タ行・カ行

シャ行・ジャ行・チャ行

母音・マ行・パ行・バ行

発達途上の発音の誤り

誤り音	誤り方	例
サ行	タ行・チャ行・シャ行に置換	オ <u>タ</u> カナ（魚）・ジュ- <u>チュ</u> （ジュース）・ <u>シェン</u> <u>シェイ</u> （先生）
ツ	チュに置換	<u>チュ</u> ミキ（積み木）
ザ行	ダ行・ジャ行に置換	<u>ド</u> ウ（象）・ <u>ジュ</u> ボン（ズボン）
シ	チに置換	<u>チ</u> ンブン（新聞）
ラ行	ダ行・ヤ行に置換・省略	<u>ダイ</u> オン（ライオン）・ <u>ヤ</u> ッパ（ラッパ）・インゴ（りんご）
カ行	タ行・チャ行に置換	ミ <u>タ</u> ン（みかん）・ <u>チェー</u> <u>チ</u> （ケーキ）
ガ行	ダ行・ジャ行に置換	<u>ド</u> ハン（ご飯）・ <u>ジュ</u> -ニュー（牛乳）
ハ行	子音の省略	<u>イ</u> コウキ（飛行機）・オ <u>ウ</u> ネ（お舟）

ことばが不明瞭になる原因は？

- ① ことばの発達の問題
- ② 唇や舌の動きの問題
- ③ 鼻咽腔閉鎖機能の問題

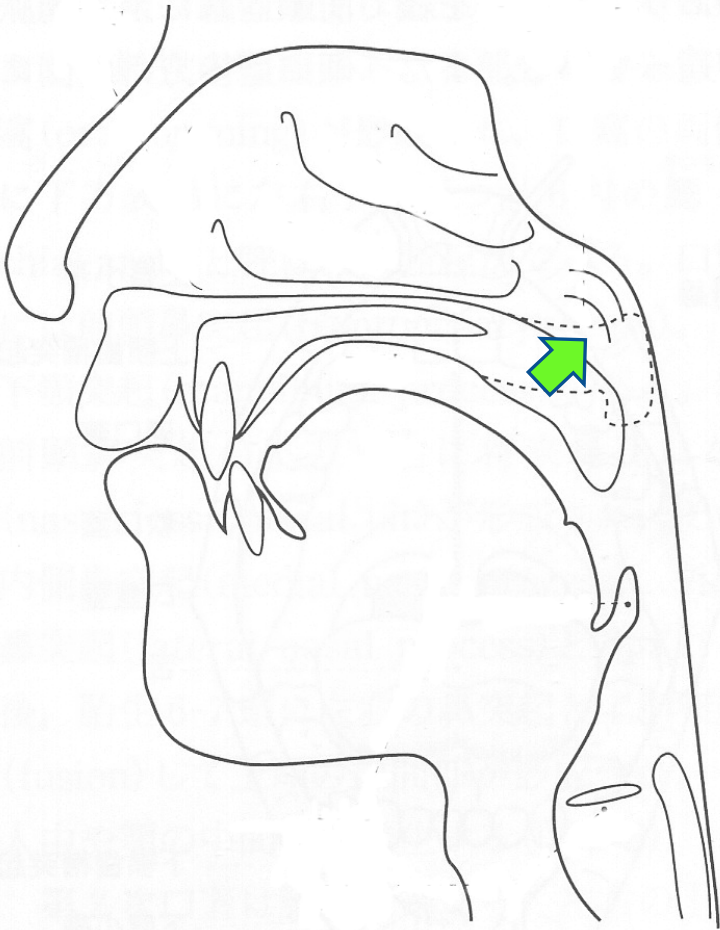
③ 鼻咽腔閉鎖機能の問題

22q11.2欠失症候群のお子さんの鼻咽腔閉鎖機能不全

→頻度は高いが程度は個人差がある

- ✓ 鼻にかかった声のような声質（開鼻声）
- ✓ 発音が不明瞭・母音ばかりでお話しする（異常構音）

鼻咽腔閉鎖機能不全とは？



発声・嚥下時

軟口蓋が上がり、喉の奥（咽頭壁）と接することで、
鼻咽腔を閉鎖する

軟口蓋の長さ→短いと届かない
軟口蓋の動き→弱いと上がらない
咽頭の深さ→深いと届かない

⇒ 鼻咽腔閉鎖機能不全

鼻咽腔閉鎖機能不全があると…

- ・開鼻声
- ・呼気鼻漏出による子音の歪み
- ・異常構音（声門破裂音）

開鼻声ってどんな声？

呼気が鼻に抜けてしまうため、音の響き（共鳴）が過度に鼻へかかってしまう

「あいうえお」が「ん」と混ざったような音に聞こえる

呼気鼻漏出による子音の歪み・声門破裂音とは？

呼気鼻漏出による子音の歪み

「パンダ」

→マンナ

鼻に抜けたような声質

子音が鼻に抜けて音が弱くなったり
マ行やナ行に近い音に聞こえる

異常構音（声門破裂音）

「おかあさん」

→オ.アー.アン

ブツブツと途切れた母音が多い発音

鼻咽腔閉鎖機能不全がある場合は？

- ごく軽度であれば日常生活には問題がないことが多い
- 鼻咽腔閉鎖機能不全が重度で発音に影響があり、コミュニケーションにデメリットが生じるようであれば治療（手術）を勧める
- 発音の状態について経過を見ていくことが大事

鼻咽腔閉鎖機能不全がある場合の対応

形成外科を受診



STが発音や声を評価し、鼻咽腔閉鎖機能不全の有無をチェック



必要であれば精査（レントゲン・鼻からの内視鏡）



形成外科医と手術の適応を相談 → 適応がある場合は手術



鼻咽腔閉鎖機能・発達・発音の状態を定期的に評価
訓練が必要な場合は、訓練を開始

発音の訓練について

- ✓ 間違えて覚えた音や、癖がついて歪んだ音に対して、正しい発音の仕方を学習
- ✓ 訓練は、地域の療育機関にお願いしています
- ✓ 訓練の頻度は、原則として1、2週に1回、時間は40分程度。症状やお子さんや家庭の状態に合わせて調整
- ✓ 訓練の開始時期や訓練期間はお子さんによって異なります
- ✓ 一般的には、発達年齢で4－5歳以降に開始

発音についてご家庭で気をつけて頂きたいこと

- ✓ 適切な時期まで訓練は待ちましょう
- ✓ それまでは、発音の誤りを指摘したり、言い直しをさせないようにしましょう
- ✓ ご家族は、正しい発音でお子さんと接しましょう
- ✓ 耳の聞こえをしっかりと管理しましょう
- ✓ ことはそのものの発達を育てることが、発音の改善にも役立ちます
- ✓ よく噛んで食べる、口を使った遊びをする

長期的な視点で支えていきます

- ✓ ご心配なことはどうぞ遠慮なく相談を
- ✓ 焦らず一つ一つ進んでいきましょう

ご清聴ありがとうございました

